

ついに同窓会の夢実現

第一回支部長会議無事終る

本会発足以来の懸案事項であった支部長会議は、去る六月二十八日と二十九日の両日にわたり、学園において二十六名という多数の支部長出席の下に開催されました。本会議は本会にとっても、また母校輝潤学園にとっても、きわめて有意義なものであると思うので、そのあらましをお知らせすると同時に、会員のみならずの御活躍と各支部活動の充実発展のために総意を集集されますようお願いいたします。

支部長会議のあらまし

- 1、支那基金贈呈
- 1、場所 二十周年記念事業によって、建設された学園唯一の鉄筋コンクリート近代建築

の新教室。

2、日時 六月二十八日午後二時と六時

時

3、日程 会長挨拶

未賓挨拶

議事

(1)事業報告

(2)会計報告

(3)各支部の状況および活動報告

(4)同窓会の活動方針及び、本部より各支部あて協力依頼事項説明

4、その他の行事

(1)学園長他教職員を招いての懇親会

六月二十八日夜

(2)学園内見学

六月二十九日午前八時〜十時

二、参加支部及び支部長(代理者含む)は次のとおり。

県名	氏名	期別
青森	松尾 浩 朗	5
岩手	佐藤 隆 隆	2
秋田	守屋 高 雄	3
福島	大塚 和 吉	5
茨城	石井 隆 夫	4
栃木	湯沢 隆 夫	1
群馬	飯島 金次郎	3
千葉	剣持 義 虎	2
東京	山下 耕 一	7
神奈川	山口 次 夫	1
富山	深山 一 雄	16
福井	藤井 武 夫	1
山梨	小林 正 巳	5
長野	小林 道 男	4
岐阜	松永 晴 夫	3
静岡	村田 和 彦	11
愛知	岩田 勇 男	2
滋賀	高田 利 通	1
京都	竹村 洋 一	19
兵庫	加藤 整	10
和歌山	早田 仁	1
山口	平佐 米 光	2
山形	奥村 心 度	2
熊本	奥村 心 度	2
宮崎	松尾 士 郎	14

(波賀上段へ移す)

第九回同窓会大会

十一月二日に決定

第六回同窓会大会において、今後の大会は隔年毎の十一月三日に開催することに決定されておりました。しかし、今年の開催学園の発展に関連して、学園創立は十一月一日が土曜日、二日が日曜日、三日(月)が憲法発布記念日と休みが続き、また、連年の同窓生からも多勢出席していただくためには、そのなかで、ある二日が最も都合がよからうと、去る五月十日の常任委員会で開催日を変更す

(三頁中段に移す)

眞光島 石 寺 助 夫 6
島 根 小 松 原 照 夫 14
なお、本部役員及事務局、地元渡城支部有志を含めた出席者総数は四十六名の多きに達した。

「こぼれ話し……交付にて……
今回は旅費を支払いました。ところが、何しろ同窓会と言えはお金をとられることばかり、そこで「いやあ旅費を貰うなんてとんでもない、ほんとにいただいいていいんですか……」「いや、さういわずにぜひとっておいてください」と、支払う方が汗だくでお願いすることしきり、かと思ふと交付で何も言わぬうちに、サイフを出して「今日の会費はいくらですか……」。「いいえとんでもない、今日はいただくのでなくて旅費はお支払います……」「ホントですか、ホントにいただいいていいんですか、同窓会は破産しないの？」とこんな調子で交付は説明に多忙でした。

三、同窓会費の支払い

本日ここに多数の支部長各位の出席を得て、無事に本支部長会議を開催できることは、私達本会役員及び事務局員にとって最上のようごびである。
私は同窓会活動について、日頃絶大な御活動と御協力をいただいている各位に心から感謝している。とくに昭和三十一年第六回同窓会決定事項である二十周年記念事業については、本部からの再三



写真左は支部会議における秋原会長(左)と石橋副会長(右)。右は石橋副学園長の挨拶と会場右列。石橋副学園長の右隣りは板井副会長、下は会場左列。

再四にわたる協力要請に対して、心よく応ぜられた結果、同窓会は記念会館建設をはじめとする諸事業について、最も重要な役割を果たすことができた。この成果は、經濟学園発展のためにはかり知れない程の大きな意味を持つものと考えられる。
また会員の動向把握についても各位の協力により、一段と進歩したが、その結果として会員名簿は回を追うに従って充実することができた。
次に支部長会議を開催するに至った経

同窓会

過を中し上げる。
支部長会議は、多年の念願というか、宿願というか、とにかく大きな課題であったが、「一回開催に要する費用約四十と五十万円、事務局は学園業務執行上重要なポストにある上、本会が会員総数三千四百余名の大巨帯となったため、通常業務すら実施困難であり、専従職員が必要」といった事情から実現の見通しはなかつた。しかるに、内外の情勢を見ると、断じて行いべきという、全常任委員以下、全事務局員の熱意によって今回開催するに至ったのである。以上のようなことから本会議の成果に、心から期待するものである。

四、実務あいさつ

石橋副学園長は、あいさつを兼ねて、学園の財政、学生応募状況、施設拡充、教授陣の充実、中央協同組合学園の現状、その見通しと經濟学園との関係について説明された。(内容略)

五、事務報告並びに会計報告

坪野事務局長
事業については左記について報告した。

- (1) 会報の発行。
- (2) 会員名簿の発行。
- (3) 学園発展のための協力事業。
 - 学生募集に対する協力
 - 奨学金制度
 - 学園創立十周年記念事業
 - 学園創立二十周年記念事業
 - 中央協同組合学園問題の検討

また会計については、本会の財政状況及び二十周年記念事業取支等を報告したが、これらの内容については、紙面の都合上掲載が困難であるのと、その概要はその都度会報でお知らせしてあるし、また来たる十一月二日開催予定の第九回大会で報告するので割愛した。

六、同窓会の活動方針

和田副会長

次の四項目にわたって、活動方針を明らかにした。

- 1、活動方針とその基本的な考え方。
- 2、学園のあり方への提言。
- 3、支部活動。
- 4、学園業務への協力。

なおこれらの活動方針の基本線はすでに昭和四十一年十二月の会報に掲載した、鯉淵学園刷新要綱なので、今一度御覧願いたい。

七、本部からの各支部への要請事項

本題については多数の支部から、趣旨はよく理解したから、支部として何を成すべきか、具体的に明示されたいという要望があり、これに答えたものであり、全員一致で承認を得たので、特にお願いたしたい。

- 1、支部会議を最小限必ず年一回は開催されたい。
- 2、本部会費の納入に、全力を尽していただきたい。
- 3、質の良い入学生を多数送っていたきたい。
- 4、学園の動向に注目し、現在を正しく認識されたい。

5、学園の社会的地位確立のため、支部後援会の結成を促進されたい。

6、本部決定事項つまり、本部からの要請を行動に移せる様態を固めていただきたい。

なおしめくくりとして、農林教育協会・学園・同窓会が一体となつての活動があつてこそ、はじめて学園の発展、同窓生の社会的地位や活動の場がひろげられることを確認した。

うれしい話
藤井福井農受密書
福井県では、知事が鯉淵学園の信頼者で、同窓会員を自認している。我々支部会員は、知事と対等に話し出来るのは鯉淵学園の卒業生なればこそと誇りに思っている。

まだ他にもお知らせしたいことが沢山あるが、紙面の都合で割愛させていただきます。

(第九回同窓会大会より続く)

せるような懐かしい雰囲気がかもしだされ同窓会らしい交歓が行なわれました。

今年は一昨年同様の大会決定事項でもあり、別に報告してありますように、六月二十八、九日に開催された支部長会議の話し合い事項をうけて、同窓会組織の強化と相互連絡の緊密化を通じ、今後の同窓会活動の発展、今後の学園発展に対する協力方法の検討、などを内容とした大会をもちたいと、常任委員会を中心に話

し合っております。

夜は例年にならって懇親会が予定されております。宿舎は同窓会が責任をもって準備することにしてあります。

十一月二日の大会には近住者同士、同期生同士互いに誘い合せ、一人でも多くの出席者を得て盛大なしかも意義ある大会になることを願っております。

大会日程、出席要領の概要は次の通りです。

一、日程

同窓会第九回総会

十一月二日、午後一時～四時

懇親会 二日 午後五時～七時

在学生との各種交歓会(自治会と話し合い中) 三日 八時～十一時

二、場所

総会、懇親会共三番教室、各種交歓会はその他の教室

三、宿泊

学園来賓宿舎、若竹寮、舎宅、学生男子寮、農林省機械化研修室宿舎などを予定しております。これまでは学生寮に自由宿泊された方も相当ありましたが、今年は大出欠者一五〇名以上を予想しており、各自かつて寮に泊り込むことになつては、全体の収容が困難になりますので、今回は同窓会がそれぞれの宿舎管理者と話し合い、大会出席者の宿泊申し込みを九月下旬頃までまとめて、同窓会が宿泊者の割振りをしなければならなくなりま

す。したがって、大会の時は宿泊の申込がなく、また受付を通らずに単に社長、社員関係では寮に宿泊出来ませんので、あらかじめ御了承下さい。出席者は必ず宿泊申込みをして下さい。

大会参加経費は懇親会費、二日の宿泊費、二日昼と三日朝の食費合計一、五〇〇円です。

どうぞ今から予定を組み、十一月二日の大会には多勢御出席下さるようお願いしております。

一四期生会

三十四年三月に卒業した一四期生は、今年で卒業後十年目になるということで、期生会の計画について話し合つておるようです。期日は、第九回同窓会大会時の総会終了後になるもよう。細部計画はこれから検討し、それぞれに連絡される由、計画作成の中心には茨城県農業者会松本定雄氏(東茨城郡内原町大足一二八〇)が当たっております。

二〇期生会

過日、奥野信一氏(平塚市四の宮二五九七、小松製作所技術研究所実験部)、石井善兵衛氏(鶴岡市大字大広乙一九)が突然事務局をおとすられ、秋には二〇期生会を開催したい。東京周辺の二〇期生とこれから相談に行く予定だと、同窓会名簿を求めて行かれました。

最近の学生の意見

昨春秋、萩原会長より卒業生と在学生の交流を深める必要がある。という話を聞き、とりあえず思いついたのが本欄です。

本稿は、社会、学園、学生生活に対する意見について、自治会広報部をとうして、在学生に依頼したものです。

内容は、はからずも学生生活に集中

し、また共通したものになりましたが、集まった四篇全部を掲載しました。

一と二四期それぞれに想いおこすことなどおありのはず、在学生との交流の意味における原稿をお寄せ下され、本欄の発展に御協力、または本欄の御活用をお願い致します。

ある人間のささやき

二年 村上 孝江

ふと空が、いちょう並木が、栗畑が一年前と全く変わっていないように思えた。

新入生がはいってきて学園が大きくなったように感じたのは、一瞬の想像にすぎなかったであろうか。またしてもとの寮にもどった。

このごろ新入生は、生活に対し、何かもの足りなさを感して悩んでいるらしい。彼らにひとつだけ望むことは、その懐疑を、苦悩を自分の生きるうえに、いかしてほしいという事である。ダメだとあきらめるのでなく、乗り越えようとする

する勇気がほしい。この学園生活者が、すこしでもそうすることによって、マンネリと言われる状態から脱出することができるであろうし、また個々の生活にハリが出てくるものと思われる。

ところで、この懐疑、苦悩は人間につきものであるが、ここに状態として出てくるのは生活のあり方から生まれるものと思われる。私達は、自治寮であるという事が重荷になって、生活面だけに重点をおいていたのではなかったか。自治寮としての統制は、個人を無力視し、その行動をも規制しようとするものではなく、またか。全体の動きの中に個人がはめ込まれたような感じがする。それでなくとも、人は他人のすることにいちいち注意を向けたがるものであるし、ここは特に、他人の目を気にする。または他人の

行動に対し、とやかく言う傾向にある。私達は、これら停滞させる意識を、まず自身の中から打破しなければならぬ。それでは、自治寮の中で個人の生活は、どうあるべきものであろうか。

流されまいと思っても、いつの間にか流されているというような今日であり、表面的生活においては、なんら苦勞する必要のない今の生活。

もともと、私達にはやる事があるのではないか？

他の人と交わるたびに、私達のあらゆる方面における認識が薄い事を痛感する。「私は女であるから笑ってごまかせよ」というふうなあまえを深く反省する。

最近、社会運動、社会の動きについての知識の必要性を強く感じて、苦しい生活をしている。今までは、学園生活が直接社会に触れないのをさいいいに、全く

そこから目をそらして、ただ、この生活に溺れていた。

溺れるという事、その生活に満足感をおぼえるという事は、弱い人間が味わうものではない。

そこで、私達のこれからの生活は、個々の意識が高まれば、おのずと自治会の発展を促すものと考えて、個人が、人間の理想とするものを目ざして、自己の練磨に励むようにしたい。これは当然、他人とのつながりも考えることになり、自由の乱用という事もない。という事で個人は自身を磨く上で、人の立入りも気にする事なく、なんでも自由にできる限りのことをこの青年時代で特に行うべきだと思っている。

日をいっばいに浴びた自然の中を、できるかぎり声を大にして、歌いながら歩くのは気持のよいものである。

欠けているもの

二年 高崎 章

自治生活や世間の社会生活において、何か欠けているものがあるのではないだろうか。一見、平穩で秩序的にみえる生活は、中をのぞけばいがみあい、争い、自我、迷惑の形なき摩擦が生じている。そういう状態であるのは、生活している人間、人間間に欠けているものがあるの

だと思ふ。欠けているものは一体何であるか、それは「徳」といえる。

「徳」を自分なりに定義すれば、義務先行とか社会全体に対する無償の行為、心である。それが結局身についた品性、人格になる。また、人間的な価値のある力になるものと思ふ。結局「徳」とは人間的な価値とか行為を意味しているだろうと思ふ。はっきり定義できるものではない。

人間は感情の動物と言われ、自己保存

正門前県道

舗装さる

学園前を通る岩間街道は、乾くとほこり、雨が降ると泥と化したちまちま穴ぼこになるのが常でしたが、昨年暮れに舗装工事が始まり、三月三百米ほど完成致しました。

水戸から放射線状に走る道路のうちでは最も交通量が少なく、したがって舗装が遅れていたわけですが、最近はこの沿線にも、とどろし住宅地が出来はじめ、道路も水戸と岩間の両方から舗装が行なわれて、今では全線の半分程にも達しました。村の人の話によりますと、二、三年後には全線舗装されるでしょうということですが、また、友部からの道路はその道の丁度半分、神橋の火の見やぐらまで舗装されました。日本一悪いといわれていた茨城の道路事情もこのように着々整備されてきました。秋の同窓会大会にはマイカーで来園される同窓生も多いのでは

ないかと、うわさしております。

【写真は四月の正門付近風景】

手前は真新しく白線が引かれた舗装道路。正門は九期生の卒業記念、満園の桜は幹訓当時の昭和十五年に植えられたもの。桜の向うのサワラの茶木は一期生の記念植樹、車の向うの三角の屋根は、腰が赤レンガよりなる学園来賓宿舎。最近では学生の会合、同窓会の常任委員会場として使用されております。



の本能を持っている。そのために感情的・判定的・排他的な態度や行動を執り、周囲の人に迷惑をかけている。そこには、必ずと言っていい程、人間相互の間に目には見えない摩擦が生じている。人間は人の態度・行動や心を見たり聞いたり感じたりしている。その人がいかなる人物であるか、まわりの人によって評価され、社会的地位や人間的価値が形作られると思う。或は人と人との関係によって出来上がっている。人間と物質で出来上がっていないのである。自我を常に出して満足している人をまわりの人はどう思っているか。自分自身を他人の為に義務として尽くしている人をまわりの人はどう思っているか。私がそれを言うまでもないことと思う。

現代社会は力の歪曲とも言える。学力・智力・金力・権力・腕力がのさばっている。就職において、学力で人間が評価され、人間としての人格が軽視されている。皆学力にのみ努力が注がれているのである。新聞の紙面を賑わす銀行強盗や殺人は、相当巧妙で未解決なものがある。智力だけが存在し、道徳的なことは余くない。知徳一体の必要をさげびたい。また大学入試には金の力が多い。もう、万事が金であるという考えが多い。金次第でどうにもなるという空気が充満している。権力は往々にして、人に苦痛を与え、強制的に服従させている。国際問題のチエコ民主化において、まざまざとそれをみせている。

また、自治生活を考えてみるに、以上述べてきたことに関連があるように思える。皆と同じことをして、ただ自分のことに精一杯という気がする。自分達が生活している社会に、団体に、それから受ける恩恵を少しも感じず、自由でありたい、人をけがす言葉をはいて決して義務ということを考えない。自分のことはかき立て、他人の為に社会の為に考えず行動もしない。他人の欠点をみつけた時、果たして自分でそれを補ってやろうとする人が幾人いるか疑問である。一人一人が自我を出すのでなく没却し、徳を積むことである。自我の没却による尊敬と服従の自治制が必要なのだと思う。

徳を学ぶこと学・智・金・権より大なり。学力、智力、金力、権力は必要だけれども、徳がそれらよりも最も大切であるというのである。両者一体になって人間としての価値が表われるし、人間究極の目的だと思う。最後に、皆ゆとりのある精神を持つ。眼前のことばかりに目を向けず。

【注】

学生諸君の記事にあるイチョウ並木とは、現在の総務、教務課と集道間の園芸農場を菜園にあらたに（幹訓当時建設した榎木なもの）の間に植えられるイチョウを、昭和二十五年に男子寮から教室に通ずる道路（女子学生は男子寮にある食堂へ食事に行くために三度は往復している）と正門を入り左に曲って旧風呂場の前を通り、購買部に通ずる道路の両側に移植したものです。

昭和四十三年度

卒業状況

三月一日第二四回卒業式、十二日(前段)、二十六日(後段)通信教育第四回修了式が学園講堂において挙行されました。

卒業者数は、農業科六五名(、コース四二、Bコース二三)、農業協同組合科三九名、農村生活科三八名、合計一四二名、修了者数は専攻科(農業協同組合)一名、特別選科一三名、通信教育講座一八八名、総合計三四四名であります(同窓会員数三、三七八名)。

また、本科卒業生の就職状況は次表の通りです。主なものをひろってみると、最も就職者の多いのは農協で、全体の四二・三%、次いで農業二四・六%、公務員一六・二%となり、科別には農業科は農業四一・五%、農協二〇・〇%、農業協同組合科は農協八二・一%、農村生活科は農協三九・五%、生活改良普及員三一・六%となっている。これは大体最近数年間の傾向と一致しております。特別選科修了生は大部分農業、通教修了生は大部分農業改良普及員です。

なお、四十四年度卒業予定者の就職希望は、過日教務課学生係でまとめられ、これを事務局で印刷して各県支部長におとどけいたしました。学生が就職について相談に伺った際には、出来るだけの世話を願います。

昭和43年度本科卒業生就職状況 (6月10日現在)

職種 科別	農 業	団 体 職 員			公 務 員			教 育 機 関	民 間 会 社	そ の 他	合 計
		単 協	農 協 連	小 計	普 及 員	そ の 他	小 計				
農 業 科	27	10	4	14	6	2	8	3	4	9	65
農 協 科	1	26	6	32	0	1	1	1	2	2	39
生 活 科	7	15	0	15	12	1	13	1	1	1	38
合 計	35	51	10	61	18	4	22	5	7	12	142
割 合 %	24.6	36.0	7.0	43.0	12.7	2.8	15.5	3.5	4.9	8.5	10.0

鯉学生の

主体性は何処へ

二年 鈴木きみ子

鯉杏の新緑が濃く緑の装いに変わって、生命を次の事態へもちこもうとするエネルギーッシュな活動のみられる五月、いま学園の木々は生氣盛んに萌えているが、鯉学生の切迫琢磨の生命は果たして何処へ……私はここで考える。いや鯉学生なら考え苦しんでいるはずだ。自己の内的苦悩に陥っている現在の学園生活を。

人間性を基調とし、科学的な考え、積極的な実践力を身につけた人間教育をモットーとする鯉湖学園の教育方針は、完全自治の全寮制生活にも危機が来た様に感じられるが、しかし鯉学生諸君よ、学園生は人間であるはずだ。単なる動物の集りに過ぎない寮生活ではないはずだ。現状の生活に不満を抱きながら、どうする事も出来ないまま時は流れを追いかけるかの様に、ある一時の慰安を求め足は早い。だけど不満は解決されず、やるせない気持、しかし、解決されない事をわかっていても目先の物へといくのは、いま学園生の進行方向はいったい人間本来の主体性の考えは、群衆の色の考えに染まってしまったのだろうか。

五月二十一日に開催された臨時総会の雰囲気は残念ながら群衆の色そのものズバリであった。総会は、総会改正、会計改正、会則審議会創設、医療互助規定創設、栄養部食費値上げ承認についての重大議案五つ提出された。にもかかわらず総会の雰囲気は、ただ感覚的に受けとめられたと云うだけ、ガヤガヤの果をつついたように騒ぎ、肝心の議案内容を質問するのはほんの数名、質問がないから納得したものとして判断を下した議長が採決にはいると、己の思考をめぐにした右手はその時の雰囲気酔って上げる自治会員も少なくない。そんな調子で議案がスイスイ通ったあの総会、必要に迫られていた議案ではあったが、果して議決されて喜ぶべきだったのだろうか。ここでまた疑念に襲われるのである。いったい自治とは？自治とは、字のごとく自ら治める事であり、自から考え自から行動することである。しかしそこには、当然個々の主体性にのっとった考えがあるはずだが、現在の鯉湖学園の自治会は無主体的な次元の低い多数決の論議で事が流されている。量はあるても質の良くならない自治。この質の低下は自治会だけの問題ではない。学園全体である様な感じがします。

(次頁三段へ続く)

昭和四十四年度

入学状況

四月十五日学園講堂において、農林省、茨城県、各種農業団体関係者の出席を得て、第二十六回入学式が盛大に挙行されました。

例年ですと学園の桜花は十日頃が満開になり、十五日頃にはかなり散ってしまふのですが、今年は三月の異常天候の影響で開花が少し遅れたために、入学式当日に丁度満開となり、また絶好の入学式日和でありました。

入学状況は別表の通りです。昨年度に比べて、本科については志願者数は農業科の園芸コースが二四名減、農業協同組合科は二〇名増、全体で一一名減（一昨年より四七名減）となり、入学者数は農村生活科一四名減が大きく、全体で二六名減となりました。入学者数の減少は、昨年度の合格者中の入学者半は予想以上に高く、前半程度を予想して合格者を決めた今年の入

学者は予想以上に低かったことが直接の原因のようです。特別満科および専攻については、昨年、一昨年に比べて大差はありませんでした。

この写真は、新入生ならびにその父兄が入学式場にあてられた講堂にはいる風景（右側に植えられたある五本のケヤキは五期生の卒業記念樹で、胸高直径約二〇センチメートル、講堂の高さに生長しております）、次員の写真は、新入生に対する駿田学園長の訓示の場です。

（写真上段へ続く）



入学式（講堂）入場風景

る。いや余り過ぎるほどにあるが、しかし、ないのは学生でありながら、学生たる態度に欠けている事である。留学生諸君ノ主体性は何処へ向けるべきか、もう一度考えてみようではありませんか。最後に先生方にひとこと、經濟学園の

銀杏の四季

二年 若林 英一

春夏秋冬……と、人間一生のうちは何度めぐりくるであろうか？

ここ經濟の里に来てからも、一度めぐりました。

春になり、桜の花もほころんでいる校庭に希望をこめて入学し、初めての寮生活に心はずませながら、また全国から集まっているという魅力に心おどらせ、始まった寮生活。

月日が流れ、夏になり銀杏の葉も青々と繁り、夏の日ざしは、容赦なく照りつける。夏の蒸し暑さに苦しみながら、試験勉強をした事も、また寝つかれず床の中から見つめた夏空の星も印象深い。秋になり、銀杏は散る、冷えびえと流れる夜風にのって、虫の音に耳を傾ける情緒さ、思わず故郷の裏山を思い浮かべ

る。冬になり、銀杏は竹ぼうきになり、枝の素性が冬の澄み切った青空に向って突き刺さるばかりに胸をはたいてる。寒さに負けない銀杏、木枯にも負けない銀杏、くる日もくる日も風が吹く、そ

よきは、教壇をおりて家庭を交えて先生と生徒の交流であると思っています。だから、悲しい時、憂しい時、真先に走って相談出来る先生と生徒の意志疎通がなされる、心の門がある事を信じています。

れにも負けない銀杏。

そしていつの日か、また春がやってくる。銀杏は忘れず、芽を出した。冬の寒さに耐えじつと堪えていた。この春の為に堪えて、自分を自分で磨いていた努力が報いられ、若葉を春には出すのだ。桜もそうだ、れんげもそうだ。

春になると学園の風景はきれいだ。みんな苦しみに耐え、自分で努力した所に美しい花が咲くのだ。春に苦しみ、夏に苦しむ、秋に苦しむ、冬に苦しむ、ただ己れのみで苦しんで解決はなかなかない。

苦しみを耐え、自分で固執してしまっているのだからかもしれないが、でも悩みのなかから進歩が必ずしもなかったとは言えない。苦しみのなかから喜びも見出し、己れの進むべきものを、自分で開発するうれしさを手につかむ。そんな喜びも、今となってはちよびりありそうな気がする。

己れに勝とう、己れに勝とうと思う時、頭の中ではこうやらなくてはいい、こうしようと思っても、なかなかできない。そして、自分を見失いあせってしまえば、ジレンマに陥る。そんな時

（写真三段へ続く）

昭和44年度入学状況

科別	農 業 科		農業協同 組合科	農 村 生 活 科	特別選科 (自習コ ース)	専 攻 科	合 計
	園 芸 コ ー ス	畜 産 コ ー ス					
志願者数	121	58	115	109	15	1	419
入学者数	46	28	30	30	13	1	159



駿田学園長訓示

最近父兄の参列者が多く、今年は約九〇名、講堂は新入生、新入生父兄、在学生、来賓、教職員で、すし詰状態でした。入学式終了後は、以前は入学生の全寮制による学園生活のスタートを記念して、学生食堂において入学式参列者全員による会食が行なわれましたが、最近は学生、参列者共に多勢になったため、学生は学生食堂で、来賓・父兄・教職員は教室で、と別々に行なわれております。

会食は、父兄と教職員の懇談会を兼ね、新館三番教室で行なわれました。通信教育講座入学者数は、農林省普及教育課委託学生一五名、入植普及課委託学生一九名、一般通信学生二六名、合計一六〇名です。教育は五月一日学生の手引・名簿・テキスト第一部第一章「日本農業の歴史的發展」の配布と共に始まり、六月一日第二章「農民・農村・社会」、七月一日第三章「日本の気

候」、八月一日第二章「日本の土壌」が配布されました。

己れを教つてくれたものが友であり、師であり、ある時は、ちょっとした文章であった。

ある時はおまえ（銀杏葉木）の下を渡る屋を見つめながら何時も、つっ立ったままだった事もあった。自分を落ち着かせ自分を顧みたい時、自分と自分で話をする。沈黙の世界、俺とおまえだけの話し、二人の自分との話し、否定する自分、そうでない自分。でも結局は己れに忠実な自分が勝つ、真実こそ強く、真理を求めろ事こそ強く、そこに生きる美しさがあるのだ。春になり木々の花を咲かせろものは、冬の間に自分の力を貯え苦しさに耐え、自分を磨いたからこそ、春に花が咲き、秋には実を結ぶのである。

自分を創造するもの、自分を磨いて行くもの、それが自分達を磨いて行くものになるのが寮であろう。個人が成長する時、全体が成長する。全体が成長する時は、個人も成長している。つまり相互扶助の精神であろう。理性と本能との調和に苦しみ、全体（寮）の中の個人の位置づけに悩まされる。そして得たものは、自分が自分と自分に固執してはかえって自分が見えない。自分を外に出し、自分を手放した時にかえって自分が浮かび上がるのである。寮生活を通じ、個人の自治と、全体の自治の中の個人の自治のあ

る事を知った。そして全体の中でも個人は無視されてはならないという事を、また人間性（自分でよくしようとする意欲人間を信じ合う）たるものをより強く表面化しなければならぬ事を切実と感ずる。

銀杏は今日も青葉を繁らせている。誰の為でもなく、誰に見せたい為でもないのに。

中央協同組合学園

今年九月に発足

宮島教授囑託として協力

中央協同組合学園は、今年九月発足を目標として準備されつつあることは、前号でもお知らせ致しました。今年に入ってからには総務部、教務部、研究部が設けられ、具体的な細部にわたる準備が行なわれております。

しかし、余中には教育経験者がいないということから、六月より舞洲学園の宮島教授、協短大の藤沢教授がそれぞれ囑託として協力されることになりました。

宮島教授は、舞洲学園では農業協同組合科の主任として、組合科学生は一切の面倒をみてこられました。このことにより組合科学生に対する教育に手ぬかりが生じてはいけなと、一部の講義については余中の協力を得、また組合科に助手を採用し、学生の細かな世話に手ぬかりが生じないようにするため、目下入選が進められております。

新男子寮一部完成

七月中旬二期工事に着手

会報十号をもってお知らせ致しましたように、昨年度より老朽化した男子寮に代る新男子寮の建築が始められ、昨年末写真のようにその一部が完成致しました。場所は旧学生係兼自治会榮養所のあった所。プロック鉄筋補強二階建、個室は四・五メートル×四・五メートル、四人収容でき、二段ベッド、机・本棚備付けといった、かなりゆとりのある快適な寮ができました。昨年度完成部屋数は一〇部屋とわずかでしたが、今年の二期工事では写真の右側(東側)にもう一〇部屋つけたされ、四棟のうちの二棟が完成することになります。



昨年暮に完成した新男子寮

林省補助金九、七五八千円、協会負担一、八六四千円」と昨年度より少なくなっておりま。これは今年は玄関取付工

事が新たに加わりますが、より経費を要する浄化装置を昨年度において設置しているためです。資金計画は前会報にも記しましたが、茨城県にお願ひしていた補助金が三カ年に七〇〇万円と決まったため、当初の六

カ年建設計画は五カ年に短縮できる見通しとなりました。その場合は四十五、六年にそれぞれ一棟ずつ、五年目の四十七年に食堂、浴室、集會室を容する最後の棟が完成することになります。

同窓会名簿購入のすすめ

昨年十一月同窓会名簿を発行し、十二月会報をもってお知らせ致しました。作成に当たって資金不足のこともあって、予約申込みをしていただきましたが、申込数は一七六と割合少なかったようです。お会いした方々にお聞きすると、名簿はほしいが、つい郵便局にいつてお金を送るのがおっくうで、というのが多かったの、発行されれば注文もあろうかと、実はかなり余分に印刷いたしました。

発行後も注文がありました。また、会報が三〇〇部もあります。今回の名簿は方々で改良いたしました。特に使用に便利ないように住所の前に郵便番号を入れました。住所は四十年発行のものが半分以上変更しましたし、また一千余名の新入会員が追加されております。ぜひ一冊購入され、最中見舞や年賀状の発信に御活用下さい。一冊五〇〇円(送料は会負担)です。

学園人事移動

職名	氏名	任期
副校長	平野修身	臨時雇員 44・3・31
探検	雨沢綱江	助手 44・4・1
	小池 悟	臨時雇員 4・1
主任	四十二年九月にできた農場課が廃止され、それぞれの農場(課同格)が独立し、農場長が任命されました。	
	桜井昭利	園芸農場長 44・4・1
	砂田義雄	酪農場長 4・1
	佐藤 暁	常勤講師 4・1

支部だより

東京支部

總會を去る五月二十一日、農協ビル九階にて開催しました。出席者五九名(会員数一三六名)、本部より西村さんが出席され、前週より出席者も多く卒業後初めて逢う人、何年ぶりかで対面する人、学園での生活を思い出しながら、わきあいあいのうちに諸報告と懇親会を終了致しました。

総会では

一、支部の経過 報告として大竹支部長(4期)のあいさつにつづき、支留活動はかならずしも十分ではなかったが、年々会員数も多く、組織も拡大してゆくの、お互に連絡をとりながら発展させて行きたい旨のべられた。

二、学園の現状について、和田さん(3期・本部副会長)より、二十周年記念行事と中央協同組合学園の問題について報告がなされた。

三、本部の状況報告、西村さんより全国的な同窓会の活動状況報告と全国支部長会議の開催等について報告がなされた。

四、役員選出について。

新役員は左記の通り決定しました。
支部長 山下耕一(7・都農委員会) 副支部長 福丸博房(9・林野庁)

〃 土方貞彦(16・新宿青果)
〃 幹事 柴田十四生(8・中央生協)
〃 齊藤常夫(9・慈和種苗)
〃 櫻越律子(18・東京青果)
〃 佐藤博通(21・同仁社)
五、その他

今後の東京支部組織としては、隣接県(千葉、埼玉、神奈川)で東京に近い都市に勤務または居住する人をもって組織してはどうかとの意見がなされました。現在、東京支部では住居が隣接県にあっても東京に勤務する人、または交通の便からして總會等に出席出来る人には参加を呼びかけ、支部会員になっていただいています。今後は今までの組織をさらに充実するうえからも、なお広い範囲で支部の同窓会活動を組織していくことを検討することになりました。(福丸記)

(会の途中、支部長・幹事のお力添えと皆さんの協力で、三万六千円の会費を納入いただき、本部では全く大助かりでした。)

東京在住

九期生の集い

さる二月十日麻布グリーン会館にて開き、出席者中西昭司、千田徳生、齊藤常夫、島崎光博、渡辺保彦、藤田俊邦、福丸博房の七名であったが、卒業後十五年、みんなよい「おやし」になり、久し

ぶりにくみかわす酒の味はかく別であった。夜のふけるのもわずれ、〇〇君はどうしているとか、〇〇君にどこであったとか、学園での生活、社会に出てからの苦勞話し、妻や子供の話に花をさかせ、

またの集りをたのしみに、次回には出席できなかった同期生に呼びかけ、たのしい集りにしてゆくことを決め、最後に歌をうたって、二次会へと会場をかえ、たのしく終りました。(福丸記)

一三期生会

計画すすむ

五月大洗において関東甲信越地区の十三年生会が行なわれました。一泊二日間、楽しく、また職場を通して得た貴重な体験交換は非常に意義があり、秋の大会時には全国十三期生会を左記によりもつことになりました。万障御繰り合せの

上多数参加下さいませようおまちしております。
なお、細部については後日往復はがきで御連絡致します。
記
一、日時 十一月二日、同窓会大会終了後(四時頃より)
二、場所 友部町、金福
三、会費 三、〇〇〇円
四、連絡先 水戸市三の丸、自治会館内 農業会議 梅崎孝臣

学園創立二十周年記念事業資金の募状況

昭和四十年一月以来続けてきた募金運動は、今年二月をもって漸く終止付がうたれることになりました。昨年三月十五日付決算では資金に約七〇万円の不足があるといわれ、そのうち三五万円の募金を同窓会が引受け、各支部平均一萬円の再募金を依頼してきましたが、今年二月末をもってほぼ目的額に達したので、これまでの残金と共に協合理事長家にお渡し致しました。
その結果、同窓会抜きの今期(四十二年十月と四十四年二月)の募金額は七〇三、五一八円(内二十年史代六八、五〇〇円)、支出金額一一五、七六六円、また四十年来の応募総合計は二、二六一、四六六円(内二十年史代三四一、〇〇〇円)、支出合計は四二二、八一四円となりました。外に同窓生関係として総務課扱いの通信教育生六四八名分六五〇、二〇〇円を加えると総額二、九一一、六

六六円になります。

この間の応募人員は同窓会扱い一、五七六名(領収証番号・再募集者を延人員で数えてある)、総務課扱い六四八名、合計二、二二四名、全同窓生数三、三七八名(四十四年三月)に対し六七%に達しました。

次に、前例にならい四十二年十二月以降応募下さった方のお名前と金額を掲載致します。

- 北海道 美馬 信子(14・一、〇〇〇再合計一、五〇〇)、秋田 深沢 慶吉(15・五〇〇再合計二、〇〇〇)、青成雄 象(19・一、〇〇〇再合計二、〇〇〇)、茨城 沼崎 享(1・五、〇〇〇)、栗田悦二(6・二、〇〇〇再合計三、五〇〇)、中郡金三(2・二、〇〇〇再合計五、〇〇〇)、丸山朝由(15・二、〇〇〇再合計三、〇〇〇)、西野 昭子(20・一、〇〇〇再合計一、五〇〇) 谷村裕(21・一、五〇〇再合計二、〇〇〇)、栃木 高橋 久(10・二、〇〇〇)、高島武(8・一、〇〇〇再合計一、二、〇〇〇)、埼玉 奥沢 繁雄(2・二、〇〇〇再合計四、〇〇〇)、新井徳治(2・三、〇〇〇)、東京 藤井 文信(4・二、〇〇〇)、長野 湯口 康章(22・一、〇〇〇再合計一、五〇〇)、奈良 上平 尚司(通2・一、〇〇〇)、大阪 山下 重治(9・五〇〇)、広島 村田芳郎(3・一、五〇〇)、徳島 小出文子(21・一、〇〇〇再合計一、五〇〇)、東京 小口 芳昭(2・二、七六〇) 再合計五、七六〇

二十四期生諸君へ

昭和四十四年三月卒業

卒業して早や五カ月、それぞれの職場で、新入生として張り切っておられる事と思っております。

さて、一応仕事にも慣れ、落ち着きを取りもとした今日のごころ、ふと、自分の置かれた立場を考えてみる事もあるかと思ひます。

茨城に集った時は、全国の友と触れ、全国的なスケールでものを考え、話し合ったわけですが、いま、地元にもまた就職先に住みつくると今度はローカルカラーに染まって、学園当時の全国的視野を欠くようになりがちです。

学園で体得した、ヒューマニティを基調とした科学的判断に基づく実践力は、地元で大いに発揮されるべきですが、絶えず正確な判断力を養うためにも、全国に飛び散った仲間はお互に連絡をとり合い、新しい情報を身につけておかないと、その地に埋もれて白らの「セッサタクマ」を怠ることになりがちです。

そこで、他県の農業状況を知るためにも、友の便りを得るためにも、お互に白泉の新しい報告を、自分のニュースを集めた我々の情報交換誌をつくりたいと思ひます。

「友人のを読むのはいいのだけれど、自分の書くのはめんどくさくて、忙しくて」というような言いわけはお互に同じこと、許されません。自分だけ特

に忙しいなんてうぬぼれないで、一つハッスルして下さい。決して損にはなりません。

くわしくは後日に原稿依頼文を送ります予定です。運営方法等も同封します。一応十一月ごろ完成の予定です。以て、会報のいい名称を申し出て下さい。

恩師 藤岡孟彦先生

喜寿(七十七) 祝賀会のご案内

上、この企画を我々千葉県人が、今回は担当します。次回は〇〇県と毎年どこかの県で担当し、永続させたく思っています。皆様の強力な御協力を願ってやみません。

千葉県人 加藤成一、堀江博文、赤海悦子、神崎喜代子

昭和二十三年の秋、鯉湖学園の教授として、ご赴任された先生は、昭和三十二年秋まで、当学園の作物保護研究室の主任教授として、また学園の教育部長として、粉骨砕身私共の教育にご尽力下さいました。講義・実験は中すに及ばず、毎週土曜夜の読書会、生物研究会、さらには頻繁にお茶やお風呂に招いて下さったり、思い起してまことに有難く、お懐しい方々が特研生以外にも数多くおられるにちがひありません。

また奥様は、農村生活科の国語のご講義を分担下さり、学園あげでの推挙で、内原町教育委員としてご活躍もいただきました。学園舎宅で大きくなられたご長男 光彦さんは、現在全国共済農協連の中堅幹部、同じく二男の貞彦さんは、現

在東大教育学部教官と、皆さん揃って鯉湖学園の大の理解者であり、支援者でもあります。学園ご定年後、しばらくお住いになっておられた千葉から、鯉湖学園の風景と大へん似ているという理由でお求めにいられた新居、神奈川県川崎市宿河原一九五(電話 川崎局 九二局七五〇八)に昨秋移られ、光彦さんご一家と共に、大へんお元気で暮らしておられます。

先年先生七十のお祝いを学園で開催の折、皆さんとお約束しておりました、喜寿の祝賀、今春来諸準備をすすめる一方、先生にもお願いしましたところ、外ならぬ学園の皆さんのご好意に背いてはと快くお聞きとどけ下さり、私ども近々の者が、世話役をやらせていただくこと